

製品名: CRYAB マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80628**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	/

抗原情報

遺伝子名	CRYAB
別名	CRYA2; CTPP2; HSPB5; CRYAB
遺伝子 ID	1410.0
SwissProt ID	P02511
免疫原	大腸菌で発現した CRYAB (aa1-175) の精製された組み換え断片。

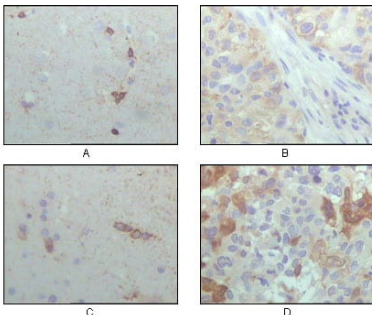
背景

クリスタリン、 α B。クリスタリンは、分類群特異的（酵素型）と普遍型（ユビキタス型）の2つのクラスに分けられます。後者のクラスは、脊椎動物の水晶体の主要タンパク質を構成し、水晶体の透明性と屈折率を維持します。水晶体の中心線維細胞は発生過程で

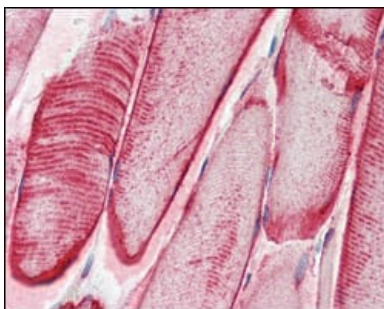
核を失うため、これらのクリスタリンは生成され、生涯にわたって保持されるため、極めて安定したタンパク質となります。哺乳類の水晶体クリスタリンは、 α 、 β 、 γ ファミリーに分類され、 β クリスタリンと γ クリスタリンはスーパーファミリーとも考えられています。 α ファミリーと β ファミリーはさらに酸性グループと塩基性グループに分類されます。クリスタリンには、4つの相同モチーフ、連結ペプチド、N末端延長部とC末端延長部の7つのタンパク質領域が存在します。 α クリスタリンは、酸性と塩基性を表す α -Aと α -Bという2つの遺伝子産物から構成されています。 α クリスタリンは熱ショックによって誘導され、低分子熱ショックタンパク質 (sHSP、HSP20とも呼ばれる) ファミリーに属します。これらは分子シャペロンとして機能しますが、真のシャペロンのようにタンパク質を再生して放出するのではなく、タンパク質を大きな可溶性凝集体に保持します。翻訳後修飾によりシャペロンとしての能力は低下します。これらの不均一な凝集体は30~40個のサブユニットで構成され、 α -Aサブユニットと α -Bサブユニットの比率はそれぞれ3:1です。 α クリスタリンの2つの追加機能は、オートキナーゼ活性と細胞内アーキテクチャへの参加です。 α -Aおよび α -B遺伝子産物は異なる発現を示し、 α -Aは主に水晶体に限定され、 α -Bは多くの組織や器官で広く発現しています。 α -Bクリスタリンの発現上昇は多くの神経疾患で発生し、デスミン関連ミオパチーのある家系ではミスセンス変異が共分離しています。

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳海馬 (A)、肺癌 (B)、脳腫瘍 (C)、乳癌 (D) の免疫組織化学分析。CRYAB マウス mAb を使用した DAB 染色による細胞質局在を示しています。



CRYAB マウス mAb を使用したパラフィン包埋ヒト骨格筋組織の免疫組織化学分析。